

CyClean™ サイクリーン 非接触式ウェブクリーニング

Meech
イギリス・ミーチ社

Meech社 CyClean™は、小型、高性能の非接触式ウェブクリーニングシステムへの高まりつつある需要に応じて設計されました。
最先端の計算流体力学（CFD）を適用することにより、Meech社は1ミクロンを下回る異物を引き出して取り除く、CyCleanの洗浄効率の最適化を図りました。



手動開閉での固定通気孔システム



エアハンドリングユニット（集塵機）

CyCleanの仕組み

- CyCleanのヘッドの領域に侵入する際、ウェブは静電気を中和する除電バーを通過します。
- 次にウェブは、吹き込み・吸い込みのエアフローによって作り出されたヘッドユニット内の乱流エアの力に晒されます。
- 乱流エアはウェブの高周波マイクロ振動を引き起こします。
- 高周波マイクロ振動と乱流エアの組み合わせはウェブの境界層を破壊するので、遺物は解放されて吸引エアフローによって吸い出されます。
- ウェブがCyCleanのヘッドから出る際、ウェブは2つ目の除電バーを通過します。これにより、異物がウェブに再付着するのを防止します。

テクノウェイブ株式会社

代理店

〒130-0026 東京都墨田区両国3-4-6
TEL 03-5625-2271
FAX 03-5625-2272
<http://www.tw-technowave.com/>

総輸入元

エアハルト ライマー ジャパン（株）
神奈川県横浜市都筑区池辺町3365



フォーム印刷

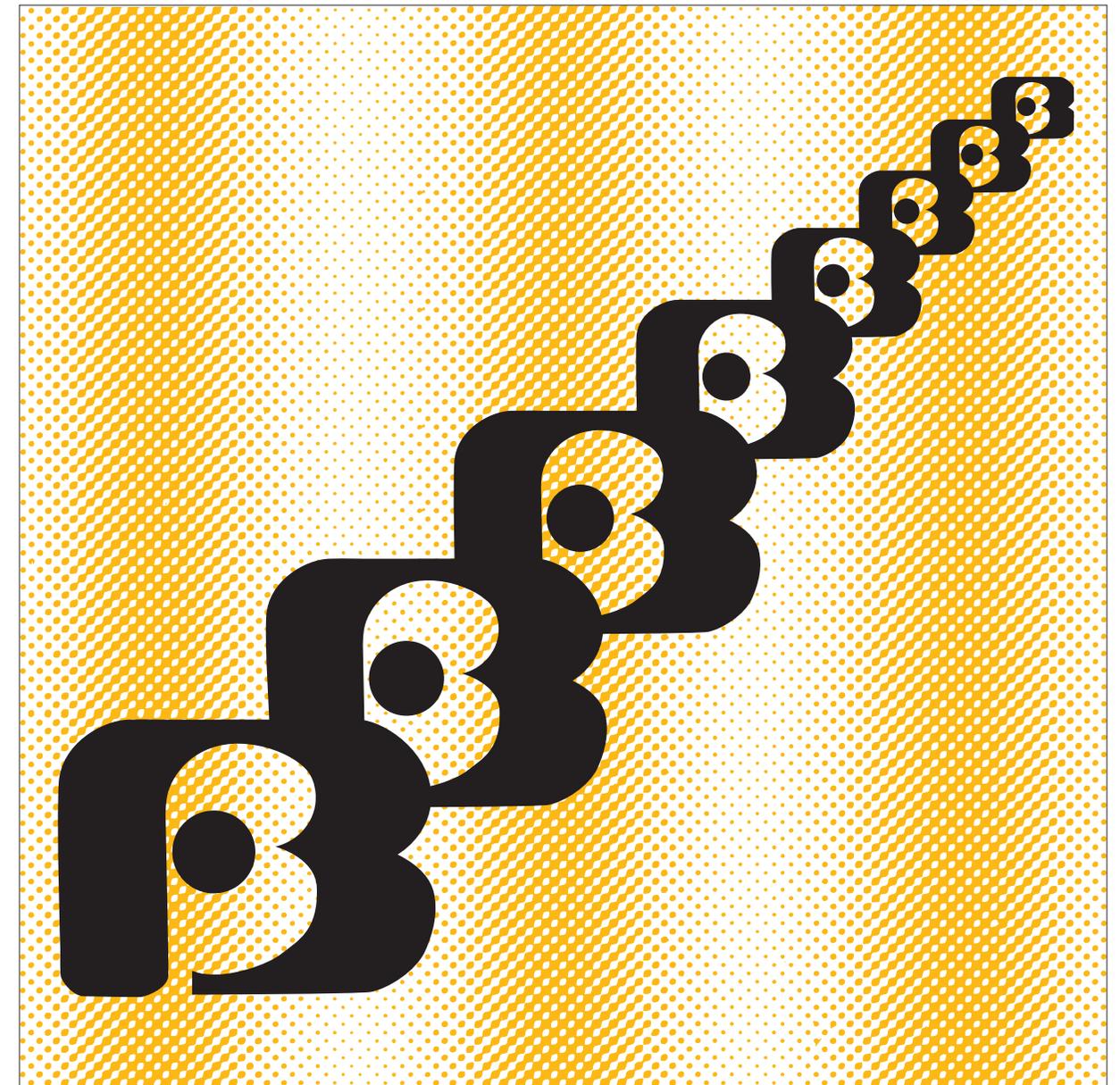


JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富 1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **380**



2014 .7

Pr!nt the Difference

変わろう。印刷ビジネスのオンリーワンへ。



他社との違いをいかに生み出し、クライアントにどのような付加価値を提供できるか。これこそが、ますます激化する印刷ビジネスで生き残る大きなカギといえます。メディアテクノロジー・ジャパンは、最新の“One to Oneマーケティング”やサイン・ディスプレイ、ラベル・パッケージなどのニーズに応える多彩なPOD機をラインアップ。さらに、商業印刷においては高品質・高生産性を実現するCTPや、CTPとPODをトータルでコントロールし、自動化・省力化を実現するユニバーサルワークフロー「EQUIOS」など、違いを生み出すさまざまなソリューションをご提案しています。印刷ビジネスのオンリーワンへ。メディアテクノロジー・ジャパンが、印刷の新たな可能性をお届けします。

株式会社メディアテクノロジー ジャパン <http://www.mtjn.co.jp/>

VP営業統轄部/03(5621)8324 本社/03(5621)8266(代)

〒135-0044 東京都江東区越中島1-1-1 ヤマトナ深川1号館1階

最新の印刷ソリューションを体感!
ホワイトカンパス MON-NAKA
www.screen-wcm.com

日本フォーム印刷工業連合会会報 2014.7 No. 380

日本フォーム工連	平成26年度通常総会報告	
	平成25年度活動報告並びに平成26年度事業計画	2
日本フォーム工連	平成26年度第1回理事会議事要録	14
日本フォーム工連	平成26年度第2回理事会議事要録	15
トピックス		17
	技術委員会主催セミナー「電子メディアの活用を見る」を開催	
	「ISO9001認証登録書合同授与式」を開催	
	合同勉強会「IPEX展とPIAに見る印刷産業の行方 —欧州・米国印刷事情—」を開催	
工業会だより		20
関東フォーム印刷工業会	平成26年度通常総会を開催	
北海道フォーム印刷工業会	平成26年度総会及び懇親会を開催	
東北フォーム印刷工業会	平成26年度総会・講演会及び懇親会を開催	
中部フォーム印刷工業会	平成26年度定期総会と記念講演会・懇親会を開催	
関西フォーム印刷工業会	平成26年度定期総会・ワールドカフェ・懇親会を開催	
	講演会「デジタル印刷のゆくえ」を開催	
	大阪支部4月度例会を開催	
中国フォーム印刷工業会	平成26年第41期定期総会を開催	
九州フォーム印刷工業会	平成26年度定期総会を開催	
INFORMATION		26
	海外印刷事情レポート 顧客の顧客をターゲットに“ビッグデータの活用法”	
	現場を歩け「Walking The Gemba」	

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート H-17 BFシリーズ

特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御 ☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい ☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制
----------------	---

	富士薬品工業株式会社 FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD HP URL http://www.fcfuji.co.jp	本 社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10 TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205 大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1 TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221
---	--	---

TOYOINK

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ

FD フォーム X シリーズ

東洋インキ株式会社
 高機能材営業本部 UVインキ営業部
 〒104-8378
 東京都中央区京橋2-7-19 京橋イーストビル
 Tel:03-3272-7693 Fax:03-3272-0666
www.toyoink.jp

- **高い硬化性** UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- **広い水幅** 水を上げてても良好な印刷適正を実現。
- **優れた転移性** 着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- **紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。**

平成26年度通常総会報告 平成25年度活動報告並びに平成26年度事業計画

日本フォーム印刷工業連合会(会長 櫻井醜)は6月3日、HOTEL椿山荘東京において平成26年度通常総会を開催した。

通常総会では第1号議案「平成25年度事業報告並びに収支決算報告承認の件」、第2号議案「中国・四国フォーム印刷工業会統合の件」、統合に伴う第3号議案「規約一部改定の件」、第4号議案「平成26年度事業計画案並びに収支予算案承認の件」、第5号議案「任期満了に伴う役員改選の件」が審議され承認された。

この通常総会の冒頭、櫻井醜会長からご挨拶を頂いたので下記に紹介いたします。

櫻井醜会長の挨拶

今日は平成26年度通常総会にお集まりいただきありがとうございます。今日は平成25年度の事業報告と決算承認、平成26年度の活動計画及び役員の選任についての承認を行って参ります。また、第3回の理事会では体制変更の承認をお願い致しますので、十分な審議をしていただきたいと思います。

いつもの一口メモから始めます。

褒められた生徒と叱られた生徒で、成績の上昇した人の割合のデータがあります。人の成長にとって褒められた方が良いのか、叱られた方が良いのかがデータで明らかです。褒められた生徒の71%は成績が上がり、叱られた生徒で成績が上がったのは19%、無視された生徒は5%との結果が出ています

フォーム業界は褒められた業界の中の一つであり、これからますます成績が良くなって行くと思っています。



櫻井醜会長

もうひとつメモを披露します。

凡庸な教師はただしゃべる。良い教師は説明する。優れた教師は自らやって見せる。偉大な教師は心に火を付ける

われわれは良い教師から優れた教師、偉大な教師を目指して頑張っていきたいと思っています。

昨年は、東アジアにおける根の深い地政学的リスクについて意識しなければならない一年でありました。一方、国内を見るとアベノミクスによる金融緩和、財政出動、成長戦略の3本の矢、経済政策は本格稼働して、2020年の東京オリンピック開催決定による経済効果の期待もあり、景気は回復基調にありました。残るのは成長戦略がどのようなアピールになるのか、これが色々な意味で経済活動の後押しになると思っています。

フォーム業界は年度末に消費税変更による駆け込み需要の影響から、一時的な受注拡大が見られたが、継続的な「取引先企業の経費削減の徹底、価格の低下、IT化、ネットワーク化の進展」により厳しい経営環境となっています。

しかし、先日の印刷業界の集まりで「われ

われの印刷企業は社数の多さが非常に利益率を悪くしており、フォーム業界が天国に見える。出版関係で頑張っても利益率は1.0%、商業印刷に至っては0.数%という状況だ」と言われます。それに引き換えわれわれのデータプリントサービス事業は、4.0～5.0%を維持できています。「今時こんな良い市場があったのか」と言われるようになりました。

昨年度の最初の理事会で私から各社の事業領域拡大、売上増強に向けて、会員相互で情報を共有する動きをお願いしました。この施策が発展することによって、われわれの団結になり、大きな塊で、様々な逆風を吹き飛ばして欲しいとの思いで発言しましたが、一年間を通して、定期的に各委員会での施策やイベントを実施して、様々な提言や情報発信を行ってきました。これらの施策から会員相互の情報共有が行われた具体的な事例が出てきました。2社共同でのISO認証取得へチャレンジ、会員企業間における生産設備の有効利用等が実施できるようになってきました。

われわれの生産設備は非常に特殊な設備が必要で、この仕事をするためにはこの設備等

の課題を抱えています。そこで、必要設備を購入するのか？設備を所有している企業と一緒に仕事を進めるのか？この課題に対する選択によって相互の共有化や団結が進んでいき、事業領域を拡大するために自分の会社だけで購入していくのはもったいないと感じ、みんながファミリーだ！との気持ちを持ちたいと思っています。われわれフォーム業界の勝負どころは「各社が持っている各様の独自技術、オリジナルなノウハウを融合させ、お客様の各社に、どのような成長戦略を描けるかを競争していくことであり、ものの競争ではない」。フォーム工連の活動を通じて会員各社がともに成長して、フォーム業界の企業価値を上げて、フォーム業界の社会的価値を上げるように力を合わせることを願っている。

と締めくくられました。

次に議案書から第1号議案「平成25年度日本フォーム印刷工業連合会事業報告」及び第4号議案「平成26年度日本フォーム印刷工業連合会事業計画」について報告いたします。

平成26年度通常総会議案書

第1号議案「平成25年度日本フォーム印刷工業連合会事業報告」

■常設委員会活動

櫻井醜会長のもと、会員各社の「成長戦略」を持ち、「経営基盤」の強化に向けた経営により業界全体が発展するよう、平成25年度の事業計画に基づいて活動を行い、常設委員会では、それぞれの事業計画に基づき委員会活動を展開した。

◇業務委員会

・平成24年度事業報告書、決算報告書、平成25年度事業計画(案)、収支予算(案)を作成

し、理事会の審議を経て平成25年度通常総会に上程、承認を受けた。毎月の収支については、月次計算書を作成、理事会に毎回報告した。

・6月13日、日本フォーム印刷工業連合会の平成25年度通常総会を記念として開催された講演会では、(株)野村総合研究所ICT・メディア産業コンサルティング部上級コンサルタントの木村淳氏より『ITの新たなトレンドが印刷産業にもたらすインパクト』をテーマに講演をいただいた。まとめとし

て木村氏は『ITは消費者が「いつでも」「どこでも」触れられるようになり高度化してきた。ITによって「何でもかんでも電子データ」にでき、処理しやすく高度な加工が可能になった。ITによる変革とは「電子データの利用による変革」と理解すべき。印刷産業はデータの宝庫。今まで印刷してきた情報が蓄積され、多くの情報量を持っている。これらのデータを活用して事業や業態を変革できる可能性がある。顧客データ、受注データを活かした効率化や受注活動の活性化が図れる。そしてそのカギは「顧客のニーズ」である』と講演。

- 8月22日、ホテル椿山荘東京において業務委員会主催の夏季講演会を開催し、TV報道番組などの通訳・取材同行などで活躍している安藤チャンめぐみ氏から「現場で見た今の中国」をテーマに、現在の中国経済の現状や課題、政治の流れ、中国ビジネス展開のポイント、そして、日本ではあまり報道されていない「今の中国」について多くの事を知る機会となった。中国市場でのビジネスで最も重要なポイントは、「出来るだけ現地化すること」、「人材を育てること」、そして「法律に対してバランス感覚を持つこと」であると3つを取り上げた。最後に『今、日中関係はあまり良くない状況です。しかし、もっと多くの日本の方々が中国へ行って、中国の人々と肌で付き合っていたきたいと思います。きっと中国人は付き合いやすく感じ、親近感を感じるようになります。両国民の交流が本当の友好の輪を広げてくれる架け橋だと思います』と話された。

- 1月23日、HOTEL椿山荘東京において「今という時代と経営者の使命」と題し、新春講演会を開催した。講師は『会社は頭から腐る』『折衝力』一流になれる50の思考・



富山和彦氏

行動術』等多くの著書を持ち、(株)経営共創基盤の代表取締役CEOの富山和彦氏。『企業の経営力は大きく分けて「意思決定力」と「現場力(実行力)」の2つの要素で決まる。意思決定は決定に関わる人数が多ければ多い程時間を要する。決定を下す人間は、トップを含めてせいぜい三人もいれば十分だろうが、日本企業は意思決定力に乏しいと言われている。この視点から見ると、大企業よりは意思決定に携わる人数の少ない中堅企業にアドバンテージがあると言える』と述べた。『経営は何も難しい数学をするわけではない。基本は「売り上げ」「コスト」「利益」に絞られる。しかし、経営には人間が係わるから難しくなる。これらをなんとかうまく噛み合わせるのが企業のトップの仕事』と強調。さらに『日本の会社はトップダウンだけで「現場力(実行力)」を無視したやり方では回らない。ボトムアップの力とトップダウンの力を上手にバランスさせていくことが経営者として非常に重要になってくる』と「経営者の使命」について話された。

- 12月21日(土)日本印刷会館において、公開講座「今、なぜISOなのか!」を開催した。毎年発行している「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」では、回答された会員企業の約半数がISOを取得されていないこともあり、ISOの認証取得や活用によって、企業体質の強化や事業継続の



ISO9001 公開講座

手段として、基本から学ぶことを、団体として後押しする機会とした。公開講座の冒頭、瀬戸会長が代表して「関東フォーム・ISO9001認証取得活動キックオフ宣言」を行い、(株)昇寿堂、(株)木万屋商会の2社が、ISO認証取得に向けて活動を開始することを広く会員に紹介した。講師の(株)PGネットシステム代表の阿部和由氏は「ISOは極々普通の経営の仕組み。ISOは国際標準化機構が信用・信頼・安全・安心を保障するために定め、世界の統一基準となる。しかし、ISOはあくまで経営システムであり、取得が目標ではない。ISOは会社の目的を目指すためのツールであり、会社の信頼性の向上や顧客満足の実現に大きく付与する」と述べている。公開講座には就職活動前の大学生も十数名が参加され、企業におけるISOの取り組みについて学んで頂いた。

- 印刷機材団体協議会が主催する「JGAS2013」が、10月2日から5日まで東京ビックサイトで開催された。期間中の来場者数は31,237名と発表されている。今回、新たに設定された「+Parkゾーン」に、日本フォーム印刷工業連合会の13社の会員企業から協力いただいで、各社のパンフレット、社内案内、CSRレポート、特徴ある製品等を提供いただき、テーブル展示をするとともに配布させていただいた。さらに日本印刷図書館に寄贈した「日本に現存する最古のビジネス



page2014 出展各社

フォーム(1952年)」も併せて展示した。ご協力いただきました会員各社は、太平洋印刷(株)、三郷コンピュータ印刷(株)、小林クリエイト(株)、(株)イセト一、水三島紙工(株)、(株)プロゴワス、協業組合ユニカラー、トッパン・フォームズ(株)、(株)恵和ビジネス、(株)昇寿堂、セイコービジネス(株)、(株)ビーエフ、レスター工業(株)の13社。

- 平成26年2月5日から3日間、サンシャインシティコンベンションセンター TOKYOにて開催された印刷技術展示会「page2014」に、日本フォーム印刷工業連合会として合同で出展した。今年の出展社数は130社。開催期間中の来場者数は65,220人(前回来場者数64,760人)と事務局から発表されている。今回、初めて出展に参加されたカワセコンピュータサプライ(株)他、太平洋印刷(株)、(株)昇寿堂、(株)木万屋商会、(株)イセト一、三郷コンピュータ印刷(株)、トッパン・フォームズ(株)、さらに特別会員の(有)TOOVも参加をいただくとともに、事務局として参加して団体紹介のPR活動を行なった。また、各社が出展スペースを横断した長尺のパネル展示や、特徴ある商品の展示が行なわれた。
- 1月23日、HOTEL椿山荘東京で「平成26年新春懇親会」を開催し、約210名が参加された。挨拶に立った櫻井会長は「われわれは漫然として機会を待つのではなく、目標を

立てて新しい分野に挑戦し、業界を超えて日本経済をリードする意気込みで、業界の発展につながる活動をしていきたい。私たちの団体は小さな所帯ではあるが、各社各様の独自技術や匠の技術を持っている。その独自技術の強みに焦点を当て、自社を如何に成長の波に乗せ、成長戦略を描くことができるかが今後の勝負になる。市場の洞察力に裏打ちされた明確なビジョン、それに基づくトップの強力なリーダーシップによる“新たな挑戦を開始する”ことが、業界の発展につながる」と呼びかけた。経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課の仲舎菜子課長補佐は、「印刷産業をめぐる環境の変化は厳しい状況の中ではあるが、昨年2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定や、富士山の世界文化遺産登録など、印刷産業にも関わりをもてる明るい話題も多かった。できることには限りがあるが、政府としても中小企業の皆さまを支えていくので、印刷産業や日本経済をけん引していく気構えで、様々な施策を利用して頂きたい」と要請した。日本印刷産業機械工業会の宮腰巖会長は、昨年10月に開催した“JGAS2013”について「デジタル印刷をはじめ、多くの新しい技術と新しいビジネスの形を紹介でき、活気に満ちた展示会を開催することができたことに感謝する」と述べるとともに、2015年9月11日から16日まで開催する“IGAS2015”について、「4年に一度の世界4大印刷展示会に相応しく、魅力ある展示会にしたい」と抱負を語った。さらに「産業競争力強化法の施行に伴う生産性向上設備投資促進税制の適用が開始されるので、証明を受けた先端設備の導入を積極的に行なっていただきたい」と設備投資を促した。日本印刷産業連合会の草野司朗専務理事の発声で乾杯。日

本フォーム印刷工業連合会の小谷達雄副会長の三本締めで閉会した。

- ・会報「フォーム印刷」375号～378号を発行、また、逐次ホームページを更新し、日本フォーム印刷工業連合会の活動内容および関連情報を発信した。

◇資材委員会

- ・用紙需給状況、景気指標、製紙産業景況感調査等を調査し毎理事会へ報告すると共に、会報、ホームページ等を通じ会員へ周知し、印刷インキ、段ボール原紙等の印刷資材についても需給動向を毎月理事会で報告した。
- ・2月14日、三菱製紙(株)本社大会議室において「デジタル印刷メディアの現状と可能性」をテーマに技術委員会・資材委員会の共催でセミナーを開催し、三菱製紙(株)の全面的な協力をいただき、デジタル印刷に適した用紙への取り組みについて学んだ。「紙とは何か？」をテーマに、紙の原料をはじめとした基本構造の詳細や、製造工程について。「液体トナー方式デジタル印刷機に最適なメディアとは？」として、インク定着性と安定性の高い性質を有するHp Indigo承認紙への対応について。今後、産業用デジタル印刷機の主流になるインクジェット紙への取り組みについて「産業用インクジェット紙の実力」と題して講演をい



共催セミナー会場

ただいた。このセミナーには、第一線で活躍されている若い社員の方々や、用紙関係に携わっている会員企業の方々が多く参加された。

◇国際委員会

- ・米国印刷関連情報のレポート、及びPODi事例情報を作成し、毎理事会に報告しました。また、会報「フォーム印刷」にも毎回「北米印刷事情レポート」を掲載する。
- ・国際委員会主催「海外動向セミナー」を10月22日、日本印刷会館において、約100名が参加して開催した。日本印刷産業連合会企画推進部国際担当部長の石橋邦夫氏は、9月8日から5日間開催された“PRINT13”でのセミナーと、同展示会開催の前日に開かれた“Executive Outlook2013”セミナーの内容を紹介した。「2002年当時全米の印刷会社トップ10のうち5社が買収され、昨年トップ10に入った企業の中で、10年前トップ20に入っていた企業は2社のみ」とダイナミックに変化している全米印刷市場について報告した。ブライター・レイター代表山下潤一郎氏は、9月10日朝に開催された“Breakfast Event”で「未来を破壊する」の著者ジョー・ウェブ氏が、印刷業界の現状と未来を米国経済の動向を交えながら予測した講演内容を報告した。「米国の印刷出荷額は2019年までに穏やかな場合で3割、厳



海外動向セミナー

しい場合には8割減少する」と予測し、「米国の印刷会社は整理統合が終わり、攻めのモードに移行しつつあり、今は将来を見据えたパートナーシップ、合弁の時代である」と同氏は分析している。ラベル新聞社の中村真己氏は、9月24日から4日間ベルギーで開催された“ラベルエキスポヨーロッパ2013”展示会について報告した。ヨーロッパの印刷業界でもデジタル化の勢いが増して、通常の印刷機メーカーもデジタルを意識するようになってきている。また、デジタル化に合わせた後加工設備として、レーザーダイカットを接続する提案も増加し、品質を管理する検査装置も充実してきたと展示内容を報告された。

◇市場調査委員会

- ・業界紙にも取上げられ、内容の充実した資料となっている「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査」の平成25年度版を発行すべく、全会員に対してアンケートを実施し11月13日に発行した。本年度の調査は参議院選挙も終わり、アベノミクスによって株価は上昇したが、実体の経済については好調とまではいえず、印刷用紙の値上げや平成26年4月には消費税の値上げも控えている7月中旬に、日本フォーム印刷工業連合会会員である123社に向けて、アンケート調査票を送付して調査を開始した。アンケート調査票の回答は8月末日に締切ったが、昨年よりも回答社数が4社増加(昨年は66社)して、7地域の70社の会員企業から回答をいただき、回答率は約6割近くに達した。今回の調査結果では、売上が減少傾向にある企業が激減すると同時に、横ばいの企業が増加しており、売上減少に歯止めが掛かった模様だ。得意先の業績についても同様の動きが見られ、フォーム業界、

得意先ともに業績回復の兆しが見える結果となっている。多くの印刷業界が取り組みを初めているBPOやプロモーション関連分野は魅力的に見えるものの、そこには今までとは違う、異業種の競合相手がひしめいている。ITベンダーやコールセンター事業者、派遣事業者、物流関係企業、広告代理店などを相手に、異なるフィールドで、異なる競い方をしなければならない。新たなフィールドで勝負するには、得意先の求める本質的な価値やニーズ、そして、問題を捕え、解決策を提案するソリューション能力が不可欠となる。そこで、求める営業力として「企画提案力・ソリューション能力」を挙げた企業は8割を超えた。強化したい部門では「技術・開発」が落ち込む一方で「営業」が圧倒的に多い。「製造業としてのモノづくりの力」よりも、「営業力、ソリューション能力」を求める声が高まっている。さらに、国際基準に基づいた統一した品質基準を構築する働きの一つとして、既に調査結果では回答の約半数の企業が取り組まれているISOについて、業界全体として活動をする動きも出てきた。この結果を踏まえて、今後来るであろう景気回復の波に乗って、「デジタル活用の新事業と新領域ビジネス」に取り組み、数々の課題を乗り越えて、業態の変革を果たしつつ躍進することを期待したい。

- ・環境委員会の共催によるセミナー「今後の印刷産業の行方は！市場調査報告書を読み解く！」を11月20日、日本印刷会館において開催した。「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」の発刊を担当した市場調査委員の越智章氏が同報告書の内容について「売上高では減少にやや歯止めがかかり、収益性の向上が見えてきた。売上へのプラス要

因として『新規開拓』『既存分野における取引先の業績向上』『DPSに付帯するBPOの受託増加』などを挙げている。多くの会員企業が今一番求めている事項は、「営業力のアップ」であり、「従来の延長線上ではなく、新しい市場を生み出す真の業態変革が求められている」と報告した。日本印刷技術協会(JAGAT)研究調査部部長の郡司秀明氏は、社会の変革と印刷ニーズの変化について、「カラー化・低価格化・短納期化・内製化・小ロット化・デジタル化」を上げ、大阪の中堅印刷社が取り組んでいる「オフセット印刷でも最小の発注単位を50部に引き下げ、小ロットカタログに対応している。自治体によって補助率が異なり、金額表示が違う50部単位の介護カタログも、地域を多く集めると2,000部以上になる。これをギャング印刷で解決している」と報告した。(株)フォーム印刷研究会社長の戸矢雅道氏は、「ビジネスフォームは制度改正などの環境変化により商品が変化していく点に敏感で、DPS、BPOなどの周辺ビジネスを取り込んで拡大していく」と今後の可能性について語った。

◇技術委員会

- ・技術委員会では7月23日、日本印刷会館において、(株)ポーラ・メソッド、ピツニーボウズジャパン(株)、(株)モリサワの3社から「デジタル印刷設備を稼働させるための技術セミナー」をテーマに、デジタルのハードを動かすソフトウェアの重要性について講演した。それは昨年度発行した「フォーム印刷業界の現状と課題に関する調査報告書」で、回答企業の約1/2が産業用カラープリンタ機を導入しているが、約1/3の企業から「その導入設備を上手く活用できない」との回答をいただいたためであ

る。(株)モリサワが開発した可変印刷ソフト「MVF」の紹介。GMC社の高性能バリアブル組版アプリケーションソフトの「GMC Inspire」を手掛けている(株)ポーラ・メソッドからは、PDFプリントをサポートする「PDF port」について紹介。ピツニーボウズジャパン(株)からは、様々な形式で保存されたデータを編集して形式変換ができ、印刷物、郵送物、電子帳票のプリント業務等に対して一元管理(ADF: Automated Document Factory)を可能としたEmtexソフトウェアの紹介を受けた。

- ・技術委員会主催の特別セミナー「インクジェット時代がきた！“液晶テレビも骨も作れる驚異の技術”」と題して、9月27日、汐留のトッパン・フォームズビル1階ホールに約180名が参加して開催した。苦難に満ちたインクジェット開発の道を30年歩んできた大ベテランで、多くの企業や大学で講義を行っている(株)マイクロジェット社長山口修一氏(工学博士)から、大きな飛躍を続けるインクジェット技術による二十一世紀の「ものづくり」の原点について学んだ。同氏は最後に我々に向けて『技術が皆の手に渡れば、次は感性・デザインセンスの時代。これからの「ものづくり」は、個人や中小企業でも勝負ができる時代にくる。高付加価値なカスタマイズ品を、ど



山口修一氏

のようにユーザーが望むものに仕上げるか。日本のおもてなし力には、顧客の要望を気持ちよく満たす力があるはずだ。私はまだまだ「ものづくり」への挑戦を続けていく。皆さんもぜひ、私と共に挑戦をして欲しい』とエールを送られた。

◇環境委員会

- ・第12回印刷産業環境優良工場表彰について、会員企業へ応募促進の働き掛けを行った。今回の印刷産業環境優良工場表彰では16工場が表彰され、日本フォーム印刷工業連合会からは、トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ(株)川本工場が、「日本印刷産業連合会会長賞」を受賞された。
- ・日本印刷産業連合会としての取り組みである「地球温暖化対策の自主行動計画」及び、「循環型社会形成の自主行動計画」へ積極的に参画した。
- ・市場調査委員会との共催によるセミナー「エコ発注への取り組み」を11月20日、日本印刷会館において開催した。野崎工業(株)社長 平松敬康氏と、東洋紙業(株)IPS事業部技術部課長 片山進氏が報告を行った。平松社長は工場内の小巻在庫の無駄をなくす「巻取り取りきり生産」について、『保管場所を専有し管理費もかかる小巻で、顧客に協力を求めている。また、直近の出荷状況



平松敬康社長

第 4 号議案「平成 26 年度日本フォーム印刷工業連合会事業計画」

業界基盤の整備と体質強化を図り、広く印刷産業全般の総合的発展を図るため、平成26年度は以下の項目を重点的に推進します。

1. 日印産連事業活動へ積極的に参画する

- ・主要構成員として、日印産連事業活動へ積極的に参画し、企業の社会的責任と印刷産業全般に亘る課題の解決に取り組み、理事会、広報を通じ会員への周知と啓蒙を行います。
- ・日印産連が主催するセミナー、報告会他各種行事への参加を積極的に進め、知識の共有と交流を図ります。

2. 委員会活動による課題の討議と諸施策を実施する

◇業務委員会

- ・地区工業会との交流を深め、会員増強、工業会活動活性化の具体策を検討し実施する。企業経営に関する講演会・セミナーを最低年4回実施。
- ・地区工業会と協議して講演会及びセミナーを各地区でも開催。
- ・各工業会で開催する講演会、セミナー、勉強会等の企画へ、講師紹介や資金的補助を行なう。
- ・生産設備及び人材活用についての情報交換のシステムを構築。
- ・夏季講演会(8月21日)を開催予定。講師：専修大学経営学部准教授 三宅秀道氏。
- ・PL資格認定：JPMマーケター認証資格等新しいマーケットへ取組むための人材育成を図る。
- ・ISO9001認定取得サポート(4ヵ月取得)、

ISO9001品質内部監査員養成研修コース(2日コース)を会員に提供し、内部監査要員のレベルアップにより、品質に対する社員のスキルの向上を目指すとともに、経営基盤の強化と品質向上活動の活性化を図る。

- ・安全管理者教育へのサポート。中央労働災害防止協会が主催するRST講座等の安全管理者養成プログラムへの参画。安全衛生管理者のレベルアップにより、安全で快適な職場環境作りを推進する。
- ・契約及び販売価格の適正化の推進。経済調査会等印刷価格調査に協力。独禁法遵守と啓蒙の為の諸施策の推進。
- ・広報活動の充実を図ります。タイムリーなホームページ内容更新の実施、会報「フォーム印刷」定期発行(4回/年)。“page2015”への出展(2015年2月開催予定)。
- ・業界の重要課題を各委員会と連携して抽出し、工連運営会議での迅速な方向付けを図る。

◇資材委員会

- ・用紙事情調査を継続実施し、理事会等を通じ資材動向を周知します。
- ・会員会社社員の資材知識向上のため工場見学・セミナーの企画。用紙及び補助資材等に関する勉強会を環境委員会と共同で実施する。損紙削減施策について環境委員会と共同での取り組み「エコ発注」による損紙削減をテーマに、環境委員会と共同で実行する。

を調査した上で、「巻取り取りきり」の適正ロットに修正したり、過大な製造ロットを適正ロットにして分割生産している』と自社内での対応を紹介。片山課長は『エコ発注』提案時のポイントとして「信頼性」「業界の連携」「お客様視点」の3点を上げた上で、「顧客からの信頼度アップ、営業力強化」「生産現場も商品化率を上げる努力によりスキルアップ」などの効果を報告した。

◇総会、理事会

平成25年度は、通常総会1回、理事会9回を開催し、重要事項の報告、審議・決定を行い、概要を会報、ホームページ等を通じ随時会員へ報告。

1. 平成25年度通常総会

平成25年6月13日、HOTEL椿山荘東京において通常総会を開催し、櫻井醜会長が議長となり、以下の議案を審議し原案通り承認されました。

- 第1号議案 平成24年度事業報告並びに収支決算報告承認の件
- 第2号議案 東中国・西中国フォーム印刷工業会統合の件
- 第3号議案 規約一部改定(統合に伴う)の件
- 第4号議案 平成25年度事業計画案並びに収支予算案承認の件

第5号議案 役員補充選任の件
通常総会に引き続き開催した第3回理事会において、櫻井醜会長が議長となり、以下の議案を審議、原案通り承認されました。

- 第1号議案 副会長、常任理事指名の件
- 第2号議案 委員会委員の委嘱に関する件

2. 理事会

平成25年度は9回の理事会を開催し、事業計画に基づいた委員会活動、日本印刷産業連合会事業活動、各地区工業会事業活動報告を受け、業界課題の共通認識を図り、重要事項について審議・決定しました。

- 第1回 平成25年4月11日 於日本印刷会館
- 第2回 平成25年5月9日 於日本印刷会館
- 第3回 平成25年6月13日 於HOTEL椿山荘東京
- 第4回 平成25年7月11日 於日本印刷会館
- 第5回 平成25年9月18日 於ホテルニューオータニ
- 第6回 平成25年10月10日 於ホテルクラウンパレス神戸(関西)
- 第7回 平成25年11月14日 於日本印刷会館
- 第8回 平成26年1月23日 於HOTEL椿山荘TOKYO
- 第9回 平成26年3月13日 於日本印刷会館



通常総会・理事会

損紙削減施策について技術委員会と共同での取り組み、印刷立ち上げ改善による損紙低減を目指し、技術委員会と共同で、インキ供給システム・J-Color、自動見当装置、絵柄監視装置等の設備について勉強会を実施する。

- ・補助資材等(インキ・版材・ブランケット・各種洗浄剤・H液添加剤等)について、安全でより適切な資材が安価で使用できるように、環境委員会と共同して、共通化を計画する。

◇国際委員会

- ・海外フォーム印刷事情を調査、分析し、理事会報告を通じ会員へ周知します。北米印刷事情レポート及びPODiレポートの継続発行、海外展示会への参加及び情報発信。
2014上海国際デジタル&エクスプレス印刷設備展&フォーラム
7月3日～6日
2014上海国際ラベルショー
7月3日～6日
2014中国国際グリーン印刷設備器材展示会
7月3日～6日
LabelexpoAmericas(米国)
9月9日～11日
GRAPH EXPO(米国)
9月28日～10月1日
All in Print China(上海)
11月14日～17日
Hunkeler innovationdays(スイス)
2015年2月23日～27日
各種海外情報の広報(会報及びホームページにて情報発信)。
海外動向セミナーの開催(6月及び11月に開催予定)。
・海外企業、団体との交流を図ります。

中華人民共和国BF印刷分会との継続的な交流。

中国印刷関連団体日本事務所からの情報入手。

米国印刷関連情報サイトPIA及びWhat They Thinkとの情報交流。

◇市場調査委員会

- ・市場動向を調査分析し、調査報告書等を通じ会員への事業方向性を提示する。アンケート調査を実施。
調査結果の分析と報告書を作成し(2014年度版を10月末発行予定)、10月末には調査報告発行セミナーを開催する。
- ・市場における共通課題を抽出し、分析及び対応指針を示す。
- ・市場に対して積極的な活動が行なえる情報提供を行なう。
- ・資格認定についての勉強会及びセミナーの開催。
JTDNA(日本テクニカルデザイナーズ協会):PL資格認定。
JPM(日本プロモーション・マーケティング協会):マーケター認証資格。
JDMA(日本ダイレクトメール協会):DM制作教室等。
基本的な営業教育の企画と実施(富士ゼロックス総合教育研究所等の教育プログラム)。

◇技術委員会

- ・技術面から見た業界の進む方向を協議しセミナー、見学会等を企画し実施する。印刷技術、環境、生産性等、現場で解決すべき問題点を洗い出し、セミナー及び勉強会の開催。
設備改善機器(インキ供給システム・J-Color、静電気除去装置、UVシステム、

潤滑剤等)の勉強会の開催。

現場作業教育(印刷ユニット周辺のメンテナンス手法)等の企画・実施。

印刷関連機械メーカー(東京機械製作所等)の見学会。

エネルギー削減分野に着目し、電力削減機器や新技術情報の共有化の推進。

- ・業態変革に関わるIT技術に対してのセミナーやワークショップを開催。
電子ペーパー等に関するセミナーの実施
6月6日に日本印刷会館で技術セミナー「電子メディアの活用を見る!」を開催予定。
電子棚札が拓く新しい世界“授業運営からセキュリティ対策まで”
講師:愛知工業大学 情報科学部 教授 中村栄治氏
デジタルペーパー開発の狙いと今後の期待
講師:ソニー(株)デバイスソリューション 事業本部統括部長 塩浦邦浩氏
紙の認知研究から見た電子メディア
講師:富士ゼロックス(株)研究技術開発本部シニアリサーチャー 柴田博仁氏

・GSIや標準EDIの普及推進と拡大に取り組んでいる物流開発センターとの交流。

- ・日本印刷産業連合会、印刷学会、印刷技術協会(JAGAT)、印刷産業機械工業会、PODiJAPAN等と提携し、各種情報を提供する。

◇環境委員会

- ・GP工場認定証制度の普及啓蒙と認定・認証の取得しやすい環境作り、情報提供を通じ取得支援を行なう。
GP認証取得支援情報の提供
- ・環境優良工場表彰申請への応募を促進する。

技術的及び申請に関する支援の実施。

- ・工場作業現場の環境改善を推進する。
有機則・PRTR法に該当しない洗浄剤、インキ、現像剤等の使用を推進する活動を行なう。
労働安全衛生法の一部改正に伴う有害性化学物質管理に適合した管理を指導する。
資材委員会と環境関連の施設見学会を実施。
- ・グリーンプリンティング資機材認定制度の普及啓蒙と活用により、環境により優しい職場環境に挑戦する。
会員各社が購入する印刷資機材に対し、グリーン基準に適合した資機材が容易に選択できるこの制度を、会員及び特別会員の活用を促す。
- ・印刷産業全体で進めるCO₂削減活動、廃棄物削減活動(地球温暖化対策・循環型社会形成の自主行動計画)を推進する。
日印産連自主行動計画への参加。
CO₂削減、廃棄物削減の実態把握と情報共有損紙低減施策としての「エコ発注」の会員各社への展開を図るため、セミナーを開催して「エコ発注」についての理解を深める活動を行なう。

◇理事会

- ・業界及び工連運営に関わる重要事項を協議決定する理事会を定期開催し、会報及びホームページ等を通じ会員に周知する。
- ・理事会への出席が難しい地方理事及び役員に対して、Ustreamによる同時配信を実施する。
- ・業界の発展、社会貢献の方向性を探る政治経済動向、社会的責任課題等についての理事研修会を企画し実施する。

日本フォーム印刷工業連合会 平成26年度 第1回理事会議事録

■平成26年4月10日(木) 午後1時30分 日本印刷会館5階501会議室

■出席者(23名)

櫻井会長、小谷副会長、瀬戸副会長、玉田常任理事、池田常任理事、林常任理事、土屋常任理事、越智(大久保常任理事)代理、入野常任理事、溝口常任理事、太田常任理事、和田常任理事、福田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、坊野理事、朝日理事、岡田理事、瀧本理事、西川監事、寺山監事、松田会員、山口(専務理事事務局)

- 議 題 (1)平成25年度決算報告について
(2)平成26年度事業内容並びに予算概要について
(3)委員会報告
(4)日本印刷産業連合会等関連報告
(5)その他資料・ご紹介

議 事

平成25年度決算報告について

通常総会に上程する平成25年度の決算報告を「決算報告書」に基づいて説明を行なう。

平成26年度事業内容並びに予算概要について

通常総会に上程する「平成26年度事業計画案・予算案」について、事前説明を行い承認を受けた。

委員会報告

●業務委員会

- ・3月度月次計算についての報告。
- ・ISO9001認証登録書合同授与式(5月13日開催)の案内。
- ・新春講演会「今という時代と経営者の使命」(講師:富山和彦氏)講演内容の報告。(講演内容については団体ホームページに掲載)

●資材委員会

- ・4月度用紙事情について報告。(資料については団体ホームページに掲載)

●国際委員会

- ・4月度北米印刷事情レポートを報告。
- ・CD勉強会との共同勉強会「IPEX展とPIAに見る印刷産業の行方」(4月23日開催)の案内。

●技術委員会

- ・技術セミナー「電子メディアの活用を見る！」(6月6日開催)についての案内。

●環境委員会

- ・エコ発注について報告。
エコ発注リーフレット及びエコシールについての説明を行なう。
- ・平成26年度環境優良工場表彰応募状況について報告。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

- (1)「印刷業における下請適正取引等の推進のためのガイドライン」
- (2)「IPEX 2014」視察報告会開催の案内
- (3)個人情報保護研究セミナー「個人情報を巡る時代的要請から生まれた新たな課題」について
- (4)グリーンプリンティング工場認定制度の案内

- (5)「中小規模事業場安全衛生サポート事業」の案内

「デジタル印刷ビジネスBOOK」
発行ニューブリテンティング

その他資料・ご紹介

- (1)「ラベルフォーラムジャパン2014」イベント開催概要
- (2)書籍紹介
「デジタル印刷レポート」
発行JAGAT

次回の平成26年度第2回理事会は
開催日 平成26年5月8日(木)
時 間 午後1時30分から
場 所 日本印刷会館5階501会議室



日本フォーム印刷工業連合会 平成26年度 第2回理事会議事録

■平成26年5月8日(木) 午後1時30分 日本印刷会館5階501会議室

■出席者(22名)

櫻井会長、小谷副会長、瀬戸副会長、玉田常任理事、林常任理事、土屋常任理事、越智(大久保常任理事)代理、佐藤常任理事、佐久間常任理事、入野常任理事、溝口常任理事、太田常任理事、福田常任理事、佐々木常任理事、福武理事、坊野理事、朝日理事、西理事、大門理事、西川監事、寺山監事、山口(専務理事事務局)

- 議 題 (1)平成26年度通常総会議案書(案)について
(2)委員会報告
(3)日本印刷産業連合会等関連報告
(4)その他資料・ご紹介

議 事

平成26年度通常総会議案書について報告
第1回理事会にて通常総会議案について報

告致したが、中国地区と四国地区の統合等についての準備が整ったので、改めて平成26年度通常総会議案書(案)の変更点等についての説明を行った。

委員会報告

●業務委員会

- ・4月度月次計算についての報告。

・ISO9001認証登録書合同授与式(5月13日開催)の案内。

●国際委員会

- ・CD勉強会との共同勉強会「IPEX展とPIAに見る印刷産業の行方」開催報告。(講演資料については団体ホームページに掲載)
- ・日印産連主催「IPEX 2014報告会」報告。

●技術委員会

- ・技術委員会報告。
- ・技術セミナー「電子メディアの活用を見る！」(6月6日開催)についての案内。(講演資料については団体ホームページに掲載予定)

●環境委員会

- ・環境委員会会議報告。
- ・エコ発注について報告。エコ発注リーフレット及びエコシールについての説明を行なう。(リーフレットについては団体ホームページに掲載)。

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告



があった。

- (1)平成26年度第1回個人情報保護研究セミナー(新保教授資料)
- (2)第20回GP交流会「東京都のVOC対策とグリーン購入ガイド」
- (3)「中小規模事業場安全衛生サポート事業」結果レポート
- (4)2014年「9月印刷の月」PRポスターデザイン募集

その他資料・ご紹介

- (1)GS1コードを利用したリコール対策研究会
- (2)無線ロガー“温湿度集中管理装置”(三和電気計器(株)製)モニター紹介

今回の平成26年度通常総会・第3回理事会は

開催日 平成26年6月3日(火)
時間 午後4時から
場所 HOTEL椿山荘東京

トピックス

技術セミナー「電子メディアの活用を見る」を開催

6月6日午後1時30分から約3時間、約130名の方々が参加されて、日本印刷会館大会議室で技術セミナー「電子メディアの活用を見る」を開催した。

このセミナーは、印刷業界の今後のビジネスに欠かせない「電子メディアとの融合と活用」について、最新の電子メディア活用事例を通して考えることが目的で、それぞれの分野で先進的な取り組みや分析を実践している三人の講師を招いて、講演を行なった。

講演に先立ち、前年度技術委員長を務めていただいた林陽一氏は、「情報媒体の電子化が進んでも、紙媒体が全くなってしまわないことではない。しかし、ペーパーレス化は着実に進んでいる。今後、われわれ印刷業界は、電子媒体を含めて、情報の伝達手段をユーザーに対して、トータル的に提案するサービスを構築していかねばならない。これを実現するためのヒントを、今回のセミナーで何か一つでも得ていただきたい」と挨拶した。



各講師による講演のポイントは、

電子棚札が拓く新しい世界 “授業運営からセキュリティ管理まで”

愛知工業大学情報学部教授 中村栄治氏

現在大学において、学生証を従来のICカードから電子棚札に代えて、その効果を検証している。両者の最大の違いは、ICカードはタッチ動作が必要なのに対して、電子棚札はハンズフリーで使え



中村栄治教授

る点にある。また 電子棚札は画面に文字や画像を表示できるので、情報伝達のツールとしても利用できる。実際の授業の現場では、電子棚札が発信するデータから、教員が学生の出欠をタブレット端末で確認し、教室の座席位置を学生の持つ電子棚札に送信している。この技術は教育関係のみでなく、社員証やイベントの来場者管理等、多くの分野に利用できる要素を残している。

デジタルペーパー開発の狙いと今後の期待

ソニー(株)デバイスソリューション事業本部
DPS事業室 統括部長 塩浦邦浩氏

デジタルペーパーの特徴は、紙と同様の視認性があること、A4サイズ相当の大きさながら薄くて軽いこと、直観的な手書きが可能なのが挙げられる。企業においては、デジタルペーパーを導入することで、今まで紙で配布されていた資料を電子化して、デジタルペーパーに送信することで、ペーパーレス会議が行える。紙に近い感覚でメモを書き込めるので、事後の有効活用も可能になる。教育ITソリューションの視点から、学校の授業で



塩浦邦浩氏

の活用が法政大学や早稲田大学等でも既に始まっている。デジタルペーパーは「インターネットにつながった紙」ということができる。最後に「デジタルペーパーを使用し、一緒に新たな価値を創造しませんか?」と、問い掛けられた。

紙の認知研究から見た電子メディア

富士ゼロックス(株)研究技術開発本部(東京工科大学兼任講師)シニアリサーチャー 柴田博仁氏

2008年にオフィスワーカー1,053名にアンケートを実施したところ、読むメディアとしては、ディスプレイより紙の方が好まれていることが分かった。また別の調査で、文章の校正スピードは、紙はディスプレイより25.5%早く、エラー検出率もディスプレイより10.7%高かった。さらに紙の読



柴田博仁氏

みやすさは「見やすさ」以上に、「扱いやすさ」にあることも分かった。しかし、電子化されたデータの方が文章の保存が低コストで、伝送や様々な応用や加工が可能である優位点もある。今後は、「紙を排除するのではなく、目的に応じて紙と電子媒体を使い分けることを前提とした文章を、ハンドリングするプラットフォームを用意することが必要である」と説かれた。

「ISO9001 認証登録書合同授与式」を開催

ISO9001認証登録書合同授与式を、5月13日午後3時より日本印刷会館で開催した。

この式のために福岡から駆けつけられた、ISO適合性評価機関のICL(株)光山茂社長は挨拶で、「皆さんが、認証取得に向けて取り組まれたISOの基本は5Sにある。私は、多くの皆さんにこのISOの付加価値を提供して行きたい」と述べ、(株)昇寿堂(瀬戸良教社長)と(株)木万屋商会(朝日健之社長)に、認証登録書が手渡された。

認定登録証を受領した(株)昇寿堂の瀬戸社長は、「4ヶ月という短期間にもかかわらず、マネジメントシステム構築に、全社員が前向きに取り組んでくれたお陰です」と感想を述べられ、(株)木万屋商会の朝日社長は、「ISOを認証取得することが目的ではなく、ISOというツールを利用して、組織の目的を達成させること。そして、顧客満足の向上を目指すことに着眼点を置いた」と今後の抱負を述べられた。引き続き行なわれたISO認証取得取り組み報告で、(株)昇寿堂のISO担当者は、

「5Sの維持を目的に社内に5S委員会を発足し、各職場を巡回して5Sパトロールを行なった。こうした内部監査を強化することによって、工場内の整理整頓が進み、職場環境が大きく改善された」と述べた。また、(株)木万屋商会の担当者は、「事務局を担当した私にとっての一番の収穫は、何でも自分でやろうとしても無理。多くの方々の協力を得ることで、認証を取得できたことが分かったことだ」と話した。最後に、(株)PGネットシステ



ISO を授与された2社の皆さん

ムの阿部和由社長から、「ISOは特別なものではなく、通常行っている業務のうちだ。ただ、当たり前前を当たり前にすることが、なかなか難しいのが現状と言える。目標を立てるのは行動をするため、実行に移さない目標は夢である」。経済学者ドラッカーの言葉を引用し、「品質マネジメントの目的は、継続的改善を通して顧客の満足を向上させながら、その満足を与え続けることにある。企業の目的は“顧客の創造”であり、それ

こそが会社の最も重要な存在意義である」と奨励された。

今回の企画で、両社の従業員の方々全員が、真面目に勉強に取り組み、見事に短期間で認証取得に成功したのは、メンバー全員がISO要求事項をしっかりと勉強され、マネジメントシステム構築に取り組み、チームワークを発揮された結果であった。ISO9001認証取得された今からが、本当のスタートになります。

合同勉強会

「IPEX展とPIAに見る印刷産業の行方 — 欧州・米国印刷事情 —」を開催

4月23日午後6時30分から日本印刷会館会議室において、千葉大印刷科の卒業生の勉強会であるCD勉強会(五百旗頭忠男会長)と合同で、約60名が参加され勉強会を開催した。

タイポロジの竹原悟代表がPIAレポートを基に米国印刷事情を、CD勉強会会長の五百旗頭氏が、3月24日～29日までロンドンで開催された“IPEX 2014”展示会について報告された。

タイポロジ代表の竹原悟氏はPIA発行のレポートから、「2014～2015年の米国経済と印刷市場」、「PIAが提唱する特化多様化戦略」、「新しい世代の印刷物発注者は!」、「マーケティング・サービス・プロバイダーへの成功の要因は!」等を分析して報告。印刷産業の日米の差は、「技術の差」ではなく「市場の差」であり、この日米の「市場の差」は「ICT環境の成熟の差」ではないのかと、仮説を披露された。そして、この市場の遅れは3～5年と講師の竹原氏は判断していると述べている。

次に講演された五百旗頭氏は“IPEX 2014”期間中開催された「世界印刷サミット」で講演された様々な講師の方々からのコメントを紹介した。

Rory Sutherland氏の「印刷十戒」を紹介する。
①印刷の情報伝達の役目は低下した。②印刷は用途の再発見(発明)が必要。③テレビへのスマート化対応。④印刷の有効性は文脈次第。⑤広告効果

は複雑。⑥効率と有効性は異なる。⑦印刷は流行に脅かされている。⑧印刷は流行から遅れている。⑨印刷のキャッチコピーは長続きする。⑩「3秒ルール」を忘れるな。その他、Benny Landaのことばも紹介されている。「絶対的な技術なるものはない」「今日ある技術は明日には取って代わられるのが技術。絶えず技術の改良と追加が必要だ」と紹介している。

最後に五百旗頭氏から講演いただいた情報として、「脱墨適正によるインクジェット紙の再生問題」と、「法律によりEU圏内で2年後には水銀灯タイプのUVランプの使用が不能」になることの2点を注目したい。

詳細資料は日本フォーム印刷工業連合会のホームページに掲載中



合同勉強会

関東フォーム印刷工業会

平成26年度通常総会及び第2回理事会を開催

関東フォーム印刷工業会(瀬戸良教会長)は、5月22日午後4時よりHOTEL椿山荘東京で、平成26年度通常総会及び第2回理事会を開催。総会では、第1号機案「平成25年度事業報告ならびに収支決算報告承認の件」、第2号議案「平成26年度事業計画案ならびに収支予算案の承認の件」について審議され、可決承認された。今期の事業計画については、支部活動を積極的にこなすとともに、各社で第一線の現場で活躍されている方々との交流の場を提供する企画等について報告した。第3号議案「任期満了に伴う役員改選の件」が審議され、林陽一氏(光ビジネスフォーム(株)代表取締役社長)が新会長に就任された。また、福田健蔵常任理事が退任され、新たに大村知之氏(トッパン・フォームズ(株))と坊野喜彦氏(アコーダー・ビジネスフォーム(株))が常任理事に、福田和寿氏(三郷コンピュータ印刷(株))が理事に就任した。退任される瀬戸前会長は「関東フォームは日本フォーム印刷工業連合会の中心的存在。地方の団体会員数が減少している現在、ますます関東フォームの担う役割は大きくなっている。林

新会長のもと、新年度の事業計画を実施し、発展していくことを期待する」と挨拶された。新任の林会長は挨拶で、「関東フォームは正会員、準会員、特別会員も含めると100社以上の企業の皆さんが会員になっている。この100社を超える皆さんの力を集めて新しいことにチャレンジしていけば、われわれの業界はもっと活性化できるものと考えている」と抱負を述べられた。新三役は、会長=林陽一(光ビジネスフォーム(株))、副会長=福田学(三郷コンピュータ印刷(株))、玉田健治(トッパン・フォームズ(株))、専務理事=山口実の各氏が務める。



通常総会

北海道フォーム印刷工業会

2014年度総会及び懇親会を開催

北海道フォーム印刷工業会(佐藤泰光会長)は4月23日、札幌グランドホテルにおいて2014年度総会及び懇親会を開催した。総会・懇親会共に会員各社から20社・30名が出席され、2013年度事業報告並びに収支決算報告承認、2014年度事業計画案並びに収支予算案承認、役員改選について審議され、滞りなく承認された。通常総会の冒頭、佐藤会長は消費税変更に伴う駆け込み受注での道内フォーム印刷業者の状況と2期



(4年)にわたる、当会によせる加盟各社のご協力に対しお礼を申し上げ、新体制に対するご協力と、10月に行われる持ち回り理事会が成功するよう各会員に再度協力依頼をした。

引き続き懇親会が行われ、各社、印刷・印刷

機材・用紙・インク等の近況報告があり、今年度より会長を務める西智樹氏((株)パスカル・プリンティング)、副会長を務める渡辺淳也氏((株)恵和ビジネス)より新任の挨拶があり懇親会を終了した。

東北フォーム印刷工業会

平成26年度定時総会及び講演会・懇親会を開催

東北フォーム印刷工業会(佐久間信幸会長)は、5月13日(火)にホテル青森にて平成26年度定時総会を開催し、25年度事業報告並びに決算報告、26年度事業計画並びに予算案が承認されました。また、任期満了に伴う役員人事により、新会長には大門一平氏(秋田印刷製本(株))が選任されました。併催の講演会では、青森のマルチタレント伊奈かっぺい氏が、東北をテーマに会場を笑いの渦に巻き込み、懇親会でも会員と交流していただきました。翌日のゴルフコンペと併せ会員の親睦を深めるものとなりました。



マルチタレント伊奈かっぺい氏

中部フォーム印刷工業会

平成26年度定期総会・記念講演会・懇親会を開催

中部フォーム印刷工業会(入野康会長)は、5月26日(月)午後3時より、「メルパルクNAGOYA」で平成26年度定期総会を行い、引き続き記念講演、懇親会を開催した。

参加者は総会37名、記念講演65名、懇親会53名であった。

冒頭、挨拶に立った入野会長は会員各社に対し、総会への参加と日頃の運営に対する支援と協力に対し感謝の意を述べたのち、挨拶を行なった。

入野会長の挨拶

当工業会の会計年度でもある平成25年度は、新政権によるアベノミクスと呼ばれる財政・経

済を中心とした政策の展開により、デフレ脱却への大きな期待がされた年度でした。しかしながら、一時的には円安の進行、株価の上昇が進むなど市場経済へも反映し、回復基調に見えた足並みも、消費税増税に伴う駆け込み需要や、その反動といった消費の減衰などによる特殊な変動要因を含みつつも、現状での諸統計の推移をみる限り、必ずしも安定的な成長の軌道を示すものではなく、また、我々業界としても、それが実感できるとは言い難い状況ではないでしょうか。

もちろん、国内の企業では、成長するアジア市場への展開と円安基調による為替差益、増税



中部フォーム印刷工業会 入野会長



落語家 桂文齋氏

前の特需等によって、好決算の報道があることも事実であり、日本経済をけん引する基幹産業が、安定的な業績を確保されることによって、内需の拡大と継続的な国内景気の好循環が実現され、直接間接的に幅広い業界にお客様を持つ我々業界にとっての恩恵と、堅実な経済成長が期待されます。一方、印刷関連業界でここ数年来論評されている印刷業界の動向や、直近での『広告費の動向予測』『デジタル印刷市場の動向』『用紙の生産・出荷状況』『製紙業界による内需試算』等、短期・中長期の動向分析を俯瞰する限り、2016年からのマイナナンバー制度や2020年の東京オリンピックに向けた特需等、個別の増加期待や、ネット・デジタルといった媒体での伸張は期待されるものの、紙媒体を中心とした印刷産業の構造的な成長への予測は厳しく、とりわけ従来型の商業印刷、出版、従来型のフォーム印刷分野での成長を予測されるものではなく、品目によっては大幅なマイナスの推移を示唆されているものも散見されます。また、製品の生産・販売形態においても、従来の“同一品目の大量生産・在庫販売”、お客様の購買方法としての“大量一括購入”と類されるものが、今後大きく減少することは自明であります。我々が今後も社会の中で必要とされる業界・企業として存続して行くためには、我々自身が企業としての存在意義たる原点に帰り、奇をてらうことなく、“真摯にお客様のニーズと向き合い、

それを満足していただくための製品やサービスとは何かを分析し、その価値をどのように提供すべきか？”を模索し、実現することに集中してこそ、我々の新しい成長の機会があり、市場としての閉塞感を打破することができるものと確信しております。平成26年度においては、いわゆるアベノミクスによる経済対策の効果等、今後の経済指標については我々業界各社の業績への連動を検証し、注視していかなくてはなりません。

さらに、新たな国際問題の影響による為替レート、原油価格の変動リスク、原材料であるインクの値上げ、原紙価格の値上げ等、直接的に連動する経営を取り巻く環境は、厳しいと謂わざるを得ない状況であり、お客様への価格の転嫁も視野に入れた財務面を含め、業界としての企業体質強化のための情報提供や研修会の開催を、当会の上部団体である日本フォーム印刷工業連合会や日本印刷産業連合会、また他の業界団体や関連団体との十分な連携を深めながら、継続的に推進してまいります。

議長に入野会長を選出して議案審議に入り、上程された4議案はいずれも承認された。

合わせて、平成26年度役員変更報告に基づき、次の新体制が承認された。

【平成26年度・新役員体制】

- 会長 入野 康(小林クリエイト(株))
- 副会長 水谷勝也(富士印刷(株))
- 理事 山中克重((株)イセトー)、伊藤民康(伊藤印刷(株))、伊藤則男(共同印刷西日本(株))、白尾浩志(トキワ印刷(株))、上田康二(トッパン・フォームズ(株))、山中 一((株)トヨトモ)、三枝栄一(事務局：小林クリエイト(株))
- 監事 加藤 薫(アコーダー・ビジネス・フォーム(株))
- 顧問 杉山 悟(小林クリエイト(株))

総会終了後、午後4時より、記念講演会を開催し、上方落語協会理事 落語家の桂文齋氏により「落語的人間観察と発想の転換」をテーマに講演をいただいた。プロの落語家の卓越した話芸による笑いを交えたご講演は、聴講者の日頃のストレスを和らげつつ、公私にわたり参考となりました。さらに、記念講演会後に懇親会を開催し、ご講演をいただいた桂文齋氏も参加され、会員相互の情報交換や参加者の懇親を深めました。

関西フォーム印刷工業会

平成26年度定期総会・ワールドカフェ・懇親会を開催

関西フォーム印刷工業会(溝口剛司会長)は、5月22日に、大阪北区の堂島ホテルにて「平成26年度定期総会」を開催し、引き続き記念講演会および懇親情報交歓会が行なわれ、約80名の参加がありました。定期総会では、全て議案どおり可決承認されました。続いて行われたワールドカフェ(参加型講演会)では、プロフェッショナル・コアクティブ・コーチの福原美砂氏を進行役に、「みんなで未来への対話をしよう。自分達の業界のことは、自分達で考え、自分達で創っていこう」というテーマで、最初4人ずつのグループになり、その後メンバーチェンジ

をしながら、ほぼ全員と対話して、「今、私たちにどのような変化が必要か。未来に向けて、今ここから、何を止め、何をしますか」と、参加者で考えてみました。終わった後の参加者の感想で、すごく刺激になったという方が多かったです。その後、懇親情報交歓会があり、前回より恒例になってきた音楽ステージが行なわれ、今回は、I S S I Nという兄弟ボーカルに本当の癒しの音楽を聴かせていただきました。

平成26年度新役員体制は次の通りです。

【平成26年度・新役員体制】

- 会長(事務局) 溝口剛司(レスター工業(株))
- 副会長 瀧本正明((株)やまとカーボン社)
中川良樹((株)ジェイビーエフサプライ)
- 会計 部坂 仁(トッパン・フォームズ(株))
- 大阪支部長 平松敬康(野崎工業(株))
- 大阪副支部長 川畑利之(相互ビジネスフォーム(株))
- 京滋支部長 太野垣裕二(寿フォーム印刷(株))
- 京滋副支部長 西田 覚((株)イセトー)
- 兵庫支部長 近藤 豪(水三島紙工(株))



ワールドカフェ

兵庫副支部長 橋本圭史((株)イセトー)
 理事 小谷達雄((株)イセトー)
 玉井敏晴(東洋紙業(株))
 天川 豊(内外カーボンインキ(株))
 岡田正明(共同印刷西日本(株))

岡田康宏(トッパン・フォームズ(株))
 伊藤正昭(小林クリエイト(株))
 山口忠昭(水三島紙工(株))
 白川靖樹(カワセコンピュータサプライ(株))
 監事 原田佳彦((株)トヨシコー)

講演会「デジタル印刷のゆくえ」を開催

関西フォーム印刷工業会(溝口剛司会長)は、インテックス大阪で開催された「J P 2014情報・印刷産業展」開催中の5月16日に、同会場会議室にて、一般社団法人POD iの代表理事の亀井雅彦氏を招いて、「デジタル印刷のゆくえ」をテーマにご講演をいただいた。デジタル化の進展によって、マーケティング行為は、大きく変わりつつある現状を指摘され、価値を売ることと、いろいろなデジタル印刷ソリューションの事例紹介等をしていただいた。参加者

は、フォーム印刷工業会以外の印刷関連業界の方々にも、多く参加され40名定員のところに、56名の参加者がありました。



大阪支部 4月度例会開催

関西フォーム印刷工業会大阪支部(平松敬康支部長)では4月24日、JPビル8Fにおいて、21社から23名が参加して、4月例会と第41回プチ勉強会を開催した。

今回のプチ勉強会は、「アベノミクス 補助金申請対策セミナー…今からでも遅くない?」と題して、株式会社ウィズクライアントの代表橋本幸信様にご講演をいただいた。

アベノミクス第三の矢として「民間投資を喚起する成長戦略」があるが、その戦略の一つとして補助金作戦がある。我々が活用できそうな補助金に「ものづくり補助金制度」があるが、その予算は1400億円あり、一次募集は既に終了し、今は二次募集が始まっている。もちろん申請すれば直ぐに補助金が出るという訳ではないので、政府のねらいをよく理解

した上で申請書類を作成しなければならない。今回のキーワードは、「革新的な取り組みにチャレンジする中小企業・小規模事業者」であり、その事業戦略が売り上げを増大し、雇用を拡大するといった、政府の意図に沿ったものである必要がある。

明確な事業戦略とその目標があるということが大前提であるが、申請書の作成にあたっては



いくつかの注意点がある。目標が政府の意図に沿っていなければならないことは既述したが、その記載方法にテクニックが必要となる。まずは、その戦略を実行するための課題を明確にし、その課題を解決するための費用に対する補助金申請であること。また、申請書においては業界を知らない審査員でも理解できる簡潔な文

書と、丁寧な補足資料を添付することが大切である。

最後に一番大事なことは、この申請書作成作業を通して、自社の長所を探り当て、それに沿った事業計画を練り上げることで、その事業が現実味を帯び、最初の一步を踏み出すきっかけとなるということであろう。

中国フォーム印刷工業会

平成26年第41期定期総会を開催

中国フォーム印刷工業会(太田真義会長)は5月16日に、メルパルク広島にて平成26年第41期定期総会を開催した。

総会では、①平成25年度事業報告、②平成25年度決算報告、③監査報告、④平成26年度事業計画(案)、⑤平成26年度収支予算(案)、⑥役員改選(案)等が審議され、原案通り可決された。

役員改選で太田会長が留任され、太田会長から「日本フォーム印刷工業連合会の通常総会

で、四国地区の会員の減少から、今期より四国フォーム印刷工業会を中国フォーム印刷工業会と統合する議案が提示される予定」と報告があった。

今後は、中国・四国フォーム印刷工業会として地域活動の活性化を図っていきます。

また、5月17日に芸南カントリークラブにて親睦ゴルフコンペを開催(6社11名参加)、太田会長が優勝された。

九州フォーム印刷工業会

平成26年度定期総会及び親睦会を開催

九州フォーム印刷工業会(和田秀一郎会長)は5月15日(木)に、福岡の「博多廊」にて平成26年度定期総会及び親睦会を開催した。

定期総会では、会員10社から11名が参加し、平成25年度の事業報告及び決算報告・平成26年度の事業計画及び収支予算案等が審議され、承認された。同時に近況の会員報告等も行なわれ、新年度に向けて会員相互の連携を強化し、活動していく事を確認した。

総会后、特別会員の皆様を含め17社から25名が参加して懇親会を行ない、初参加の会員の紹介や情報交換など、おおいに親睦を深めるとともに、楽しいひと時を過ごした。



定期総会

国際委員会

■北米印刷事情PIAレポート

顧客の顧客をターゲットに“ビッグデータの活用法”

ビッグデータの世界がどう変化するかについての話を聞くことなしに、印刷産業の展示会やカンファレンスに参加することはできません。このことは、好き・嫌いにかかわらず、貴社の将来と貴社の成功に影響を与えます。(あるいは貴社の顧客の成功のために、といたいのです)。ビッグデータは2013年の流行語に過ぎないと感じるかもしれませんが、様々な要素の集合体(コンバージェンス: convergence)で有益なデータです。ビッグデータを知るにつれて世界が変わっていきます。

第1の要素は、コンピュータの基本的な処理速度(raw computer power)です。今日の携帯(cell phone)は1969年に月面に降り立った2人を繋いだNASAのコンピュータよりも、優れた処理速度を持っています。多くの大学内にあるスーパーコンピュータやサーバーの処理速度は、信じがたいほど高速化しています。これは、NSA(国家安全保障局: National Security Agency)の電話追跡システムの情報と一致しています。膨大な計算能力を持ったコンピュータが数百万の電話番号を追跡すると、人間がかつて見たこともないblip(レーダー上の輝点)のパターン(光跡)として見る事ができるのです。

第2の要素は、驚くほどに世界を変えたスマートフォンです。iPhoneは世界を変えました。目を覚ましてから夜目を閉じるまで、その日のすべての時間を接続した状態にしています。もしも、貴方がスマートフォンを持っており、それをどこかに置き忘れたとしても、自分のスマートフォンを発見することができるアプリをインスト

ールしておけば、何時でも何処にあるかを記録しています。NSAは、誰が誰に電話しているかを追跡することで、人々が「街中」を、「国中」を、そして「世界中」を移動(旅行)しているか、パターンを観察しています。人々の行動パターンを認識されることについては不安を感じるでしょうが、ポジティブに考えると、これは貴方にとって重要なことになるでしょう。もしも貴方がNetflix(訳注:米国のオンラインDVDレンタルおよびストリーミング配信事業会社)からDVDをレンタルしようとする、貴方が求めた映画に関連して、他の人々がレンタルした映画を貴方に推奨します。この推奨は、貴方がこれらの映画を見たいと思う可能性は高いのです。そこで数百万の記録を(訳注:統計)処理すると、これらのパターンが表れ始めます。

第3の要素は、より早く情報を集め、評価し、情報伝達しているソーシャルメディアです。瞬間を切り取ったスナップ写真/言語、たくさんの写真、ビデオ、そしてメッセージ文が、毎日どんなに多くの人々に送り届けられているかを、思い浮かべてください。ソーシャルメディアはFacebook、LinkedIn(リンクトイン)、Twitterというアプリとともに、大きな関心を集めています。いずれもデジタル通信の一つの形式であり、我々が追跡しようとする、前述したようにコンピュータの驚くべき処理能力のおかげで、パターンを探ることができます。GoogleやFacebookによって、人々が、毎日、どのように、何をしようとしているかについてのパターンを観察するため、企業は投資しており、多くの企業が既にデジタル通信の追跡をや

っています。それは、すべてパターン認識に関わっています。

パターンの発見

1つの注目すべき事例があります。登録済みの女性の過去の売上のターゲットを追跡しました。すると「ベビー・シャワー・ギフト」を登録した女性が、第2子目の妊娠中期になると、ユニークな購入傾向が見られました。その傾向は、無臭ローション、コットン・ボール、ビタミン・サプリ、手の消毒剤を購入していることです。この登録した女性たちの妊娠を87%の信頼性で予測できたのです。この事実は人々をぞっとさせますが、一方では競争の優位性を創るのに役立ちます。

2013年のダイレクト・マーケティング協会(Direct Marketing Association: DMA)のカンファレンスで、Lind Woolley(DMAのCEO)は、データ駆動型のマーケティング(data driven marketing)について講演し、「印刷、メーリング、ソーシャルメディアなど、何を扱っているかは重要でない」と指摘し、「重要なことは、販売関連データに対処することです」と述べています。DMAはJohn DeightonとPeter A Johnsonによる「データの価値: 米国経済における洞察のための革新・効果の帰結」という研究報告を提供しています。Linda Woolleyは、さらに「データ駆動型のマーケティングでは、どんなビジネス・プロセスの一部であっても、すべての決定は正しくなければならない」と話しています。

「ビッグデータ」を「スモールデータ」に変える

今日の世界で顧客にサービスを提供するのであれば、ビッグデータの爆発(急増)がどんなに有用であるかを理解する必要があります。現実的に印刷企業が数百万の記録データを取り扱うことは無いかも知れないが、ビッグデータ分析

に投資する目的は、データのパターンを発見することです。しかし、ビッグデータ概念を教えられなくても、スモールデータを加工することはできます。印刷企業はスモールデータ(顧客のデータベース)を、ビッグデータ(Censusデータ)や、地域の人々のデータとリンクさせることができます。データからパターンを探し出し、あらゆる種類の分析ツールを持っている印刷企業は、たくさんあります。印刷企業でITスタッフを確保していないのであれば、このサービスは外部に委託することになります。貴社で顧客のデータをアップロードし、そのグループの特性を探求するならば、トップの顧客をより深く理解することが可能になります。

Dukky.comによって提供されたケーススタディで、Chick-fil-A(訳注:チックフィレイ:全米で2番目に大きなチキン・ファストフード・チェーン)のキャンペーンの事例があります。同社ではソーシャルメディアによりオリジナルメーリングをしたところ、279%の応答を得たのです(すなわち、オリジナルメーリング5,048通に対し、14,124通の応答がありました)。この応答した人たちのプロフィールを分析すると、「最大のグループは31歳~40歳の女性だった」ということです。これは重要なデータです。なぜならChick-fil-Aから半径5マイル以内にいる31歳~40歳の人々の住所と氏名を入手できるからです。これは一般的なメールよりも、はるかに優れた結果を得たのです。

2013年のDMAのカンファレンスで、何人もの講演者が「これからは多くのデータ・サイエンティスト(データ解析科学者)が必要となる」と予言しました。データ・サイエンティストはデータの構造を解析し、データからダイレクトマーケティング用のメッセージを導き出します。これらのデータから、より多くのターゲットと、現実的な事業戦略を構築することです。印刷企業はITスタッフの中核としてデータ・サ

イエンティストを「雇用」するのか、「契約」することが必要となるでしょう。

ビッグデータから顧客の知性とマーケットを学ぶ

印刷企業は、自社内で、あるいは取引企業と共同で実施するかどうかにかかわらず、データからマーケットを理解することを学ぶ必要があります。キャンペーンの結果を追跡するためには、Webページを追跡するGoogle Analytics (Google社が無料で提供するWebページのアクセス解析サービス)、メールを追跡するIMbth

(Intelligent Mail barcode) など、多くのツールが用意されています。これらによりすべて顧客のために、ユニークな価値ある提案を創造する機会を見出すことができます。「ビッグデータ」は本当に「ビジネスの知性」であり、顧客のニーズと行動を理解できる資源です。貴方の取り組みにより「来年の今頃には、誰かが、より多くのデータを収集し、コンピュータの処理機能を高めた方法で、顧客のより深い理解を得ている。」という保証です。

(The MAG Jan. 2014 PIA)

国際委員会

■北米印刷事情PIAレポート

現場を歩け「Walking The Gemba」

私は、リーン生産方式と改善活動のコンサルタントとして、印刷企業の生産状況を審査することが、しばしばあります。過去の実績、ビジネスの現状、問題の懸念と組織の目標についてレビューを受け、経営上層部と話し合った後で、私は受注から製品出荷に至る工程に沿って歩くことから診断を始めます。リーン生産方式では、日本語をそのまま使ったKaizenと同じように、生産現場をGembaと捉え「現場に行く：going to the Gemba」あるいは、「現場を歩く：going on a Gemba walk」として取り組むことの重要性を提唱しています。Gembaとは「実際に作業をしている場所」という意味であり、「顧客のために価値を創る場所」として捉えています。

リーン生産方式では、価値を付加する活動と、そうでない活動(価値を付加しない活動)を区別します。価値を付加する活動であるためには

- ① 顧客が支払うことを厭わない、特典があること。
- ② 正確な仕事をする事

③ 製品を改善する、何かがあること
1項目以上これらの条件と合致しない時、その活動はムダ(waste)と認めて、排除するために目標を定めます。「ムダ」とは「資源を費やしながら価値を創出できない活動」となるのです。このムダには8つの(訳注：トヨタ生産方式では「7つ」だ)。主要なカテゴリーに分類されません。

- ① Over Production：作り過ぎのムダ
- ② Inventory：在庫のムダ
- ③ Waiting：手待ちのムダ
- ④ Transportation：運搬のムダ
- ⑤ Motion：動作のムダ
- ⑥ Over Processing：加工そのもののムダ
- ⑦ Defective product：不良を作るムダ
- ⑧ People：人材活用のムダ

これら8つのムダを発見し、排除し、防止することがリーン生産活動の主要な目的です。

私は、8つの異なる印刷企業で、5年間にわたって指導しました。当初の審査では、受

注から出荷に至る工程で、価値の付加は平均してたったの9%にすぎませんでした。そこで、Gembaに存在する8つのムダを排除し、あるいは絶え間なく削減した結果、準備時間とコストが大きく減りました。その一方で、顧客に納品する製品の品質が改善されました。Gembaがどうなっているのかを知ることは、改善の機会を理解するための第1歩です。

印刷企業のGembaはどこであろうとも、製品に価値を付加する場所ですが、作業場が目目されます。Gembaを歩くことの目的は、価値を生み出す場所の現状把握であり、価値についての話し合いができるようになるためです。私たち(コンサルタント)が、現状を十分に理解すればするほど、より一層実り豊かな話し合いになり、情報提供の場にもなります。私は「入稿」の場所からGembaを歩き始め、時間計測をスタートさせます。

Gembaを歩くために、守るべき3つのガイドラインがあります。

[ガイドライン1]

現場に行き、観察せよ (Go and See)

会議室やオフィスに座ってエクセルの実績表を見ても、Gembaの実際の状況を正しく把握することはできません。物理的に体をGembaに移動させ、何が起きているのかを観察する必要があります。その目的は、事実を集めることであり、Gembaの作業者とプロセスを理解することです。

- ① 突発事故の実際は何があったのか、勘を働かせてください。突発事故の原因を追究する努力をしてください。価値を付加する全工程がスムーズな流れであることを心掛けてください。
- ② なぜ、あなたが計画したプロセスと違っているのかを理解するよう努めてください。何が、作業を混乱させているのですか？

どこで、障害が発生しているのですか？
そして、どうすれば障害を阻止できるのですか？

- ③ 企画を撤回するか、作り直してください。モノは実際に必要な場所にありますか？ 作業者は見廻してモノを探さねばなりません。
- ④ 作業者は、「何を、どうすべきか」という目的を知っていますか？ その情報源は何ですか？ 情報は容易に利用することができますか？ また、探し求めることができますか？ あるいは推測する必要がありますか？ 「正しい方法」で処理されていますか？ そして、監査員も明確に理解していますか？
- ⑤ 時間通りに進行しているかどうかを、どのようにして貴方は知りますか？
- ⑥ 仕事の速度を決めてありますか？ あなたは仕事の進行が時間通りであるかどうかを、どのようにして知りますか？
- ⑦ 従業員はどのような方法で問題点を発見していますか？ そこには支援するシステムがありますか？ 問題に直面したときにどうしますか？
- ⑧ あなたの仕事は「問題」を放置しないことであり、従業員に問題の「発見」と「解決する方法」を教えることです。
- ⑨ 「8つのムダを探せ」。なぜなら至る所に無駄があるからだ。

[ガイドライン2]

尋ねよ (Ask Question)

優れた「観察力」を持つあなたが、Gembaにいるときには、いつも何が起ったのかを明らかにし、正しく理解するため、様々な情報を必要とするでしょう。それはGembaの従業員に尋ねることです。最も優れた質問は、自由形式の質問です。従業員からはより多くの情報の提供

INFORMATION

を受けることができます。貴方の仕事は従業員が「何をしたのか」、そして「何が問題なのか」を探し出すことです。第一線の作業員は職務の専門家です。そこで、貴方が観察したことについて尋ねてください。優れた自由形式の質問で、次のような質問をしてください。

- ①ここで何が起きたのですか？
- ②この仕事は、どういう方法で、やりました(施工しました)か？
- ③この作業にはどのような作業標準がありますか？ その作業標準には、作業の内容、順序、タイミングと、その結果について、どのように記述されていますか？
- ④あなたは、この作業が正確に行なわれたことを、どういう方法で知りますか？
- ⑤作業標準に対する履行(順守)状況はどうですか？
- ⑥作業した結果、欠陥が「あった」か「なかった」かを、どう方法で知りますか？
- ⑦あなたは次の作業工程の作業員とどんな話し合いをしますか？
- ⑧あなたは、問題に遭遇したとき、どうしますか？
- ⑨「物事」が「良くなる」あるいは「悪くなる」ことを、どう方法で知りますか？
- ⑩現状を改善するために「何」を「どう」しますか？
- ⑪なぜ、これが問題なのですか？
- ⑫どんな障害が改善への取組みを阻止しているのですか？
- ⑬これはどんな影響を与えますか？
- ⑭自由形式の質問で「なぜ？」と尋ねるのがベストだと思います。例えば「物事を、なぜこの方法でやったのですか？」、あるいは「なぜこの問題が発生したと思いますか？」と尋ねるのです。「なぜ？」という質問を繰り返すことで、原因と現象の根源に近づくことを助けます。

また、あなたは作業員に対して数百の質問をすることができます。そして「Gembaを歩く」時、行われている作業のタイプによって適切な質問が決定されるでしょう。しかし 共通する質問事項がいくつかあります。

- ①顧客価値を創りこむ方法を決めてあるか、否か。
- ②プロセスが、顧客に十分なサービスを提供しているか、否か。
- ③仕事場の組織を「5S」で審査しているか、否か。
- ④ムダ(8つのムダ)を探するための作業をしているか、否か。
- ⑤問題点を探するための作業をしているか、否か。

あなたはGembaを歩く前に、その目的を明確にし、十分な理解を得ておくことが重要です。これは混乱を防ぐのに有効ですし、皆が同じ視点で物事を観察することができるようになり、参加している全員の期待をはっきりとさせることができます。

[ガイドライン3]

敬意をもって従業員と接すること
(Treat People with Respect)

Gembaに行くときには、付加価値を付ける作業をしている全ての作業員に、敬意を払うことは、必須のことです。作業員に敬意を示す最も優れた方法は、精神を集中し、自由形式の質問への回答を注意深く聞き、ノートを取り、回答を要約して復唱し、アイ・コンタクトすることです。こうしたすべての行動や態度は、あなたが熱心であることを作業員に示しています。さらに、Gembaを歩いている間は、「判断」を決めつけなさい。なぜなら回答が防御的になるからです。応答中に傍の作業員が口を挟むことがあれば、遮ってください。

工程の改善は、付加価値を生まない作業を排

INFORMATION

除することです。そのためにはGembaで仕事している作業員全員が持っている知力や問題解決力に協力を求めるべきです。作業員の能力開発と育成のために、企業が設定すべき枠組みは「敬意の基準」である。作業員の創造性を活かす挑戦と、仕事の改革とを結びつける教育への投資は、企業が作業員に敬意を示すもっとも効果的な方法であり、改善を高いレベルに持ち上げる原動力となります。

「Gembaを歩く」ことは改善活動を促進させるのに非常に効果的な方法です。あなたがデスクから立ち上がり、作業場に出向いて、Gembaを歩き廻って、成功した事例はたくさんあります。この技術をさらに深く学ぶよう私は推奨します。

John Compton氏 (RIT名誉教授)
(The Magazine Mar. 2014 PIA)

注：リーン生産方式 (lean production)

プロセス管理を徹底して効率化することで、従来の大量生産方式と同等以上の品質を実現しながらも作業時間や在庫量が大幅に削減できる生産方式。少量多品種生産に対しても、柔軟に対応できる。トヨタ生産システム(TPS)の別名。MITのジェームズ・P. ウォーマック等が1990年に、トヨタ生産システムを研究調査して「リーン生産方式」として欧米に紹介し、日本自動車メーカーが欧米を追い抜く日が来ると、当時の欧米自動車業界に衝撃を与えた。リーン(lean)とは「贅肉がとれた」の意である。リーン生産方式は、現在の米国企業でも企業改革の重要なツールとして活用されている。MITの調査の時点では、フォード生産システムの大量生産を用いて、トヨタと比較されたGEは現在、「シックス・シグマ」とともにリーン生産方式を自社の品質に関連する重要なツールとして活用している。また、GE出身のマックナーニ氏が2005年にCEOに就いたボーイング社では、リーン生産方式の導入を最優先課題の1つとして、製造現場のみならず社内や取引先にまで広げて現場主義の改革を進めている。

湿し水濾過装置 エバークリーン

菊全4色機で年間100万円の無駄をしませんか？

経費削減完璧ですか？もう一度印刷現場の経費削減を考えてみませんか！

全て削減!!

**まだまだ出来る
印刷現場の経費節減**

利益アップ

H液使用量の削減	9,000 円/月
アルコール使用量の削減	10,000 円/月
湿し水の産廃費用の削減	30,000 円/月
印刷機停止時間の削減	64,000 円/月
インキ使用量の削減	25,200 円/月
作業時間の削減	1,500 円/月
水道使用量の削減	655 円/月

※削減合計 - ランニングコスト = 102,065 円/月
コストダウン合計 = 1,224,780 円/年

計算条件：印刷機12時間/日稼働、水交換2回/月、H液 3%、IPA 5%、産廃処理、作業時間30分

株式会社ニクニ 営業部 印刷グループ 〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地843-5
 URL <http://www.nikuni.co.jp> TEL 044-833-1121 FAX 044-833-6482 **NIKUNI**



21世紀の情報記録を
サポートします。

三菱情報記録用紙

三菱 NGR 紙 三菱 IJ フォーム用紙 DF カラー M・G
ダイヤフォーム ダイアメールシリーズ OCR 用紙 感熱紙

三菱製紙株式会社 洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒130-0026 東京都墨田区向島2丁目10番14号 両国シテイコア ☎ 03 (5600) 1462
大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎ 06 (6271) 4455

三菱製紙販売株式会社 名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22 名古屋ダイヤビル ☎ 052 (563) 7561
本店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎ 03 (3566) 2341
大阪支店 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-3-9 ☎ 06 (6271) 2271
東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎ 022 (295) 7710
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎ 092 (771) 1531



NPI フォーム NEXT-IJ

次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS 事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPI フォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性(耐水性、高発色性)を付与し、新たにラインアップいたしました。

■ NPI フォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/m)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※受注生産品です。お問い合わせ下さい。



NEXT-IJ 品質概要

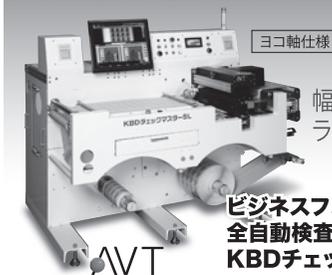
日本製紙株式会社 情報用紙営業本部 情報用紙部
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 Tel. (03) 6665-1042

シール・ラベル用全自動検査装置

KBD チェックマスター-SL

チェックマスター シリーズ

全ての不良を検知する、全自動検査装置。



幅狭のシール・ラベル用紙に対応!

ビジネスフォーム用
全自動検査装置
KBD チェックマスター-BF

廉価版! 自動検査装置
KBD チェックマスター-ライト

特長

- 独自の検査アルゴリズムを使用
- 簡単操作
- 様々な印刷物にも検知対応
- プリントフロー(検査結果と履歴の保存機能)

印刷機材の総合商社 **光文堂** 株式会社

<http://www.kobundo.co.jp>

本店 / 〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052 (331) 4111 (代)
支社 / 東京 支店 / 東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所 / 北海道・青森・山形
千葉・山梨・沼津・浜松・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄

KOBUNDO

インキ練りローラー自動洗浄装置

KBD ローラーグリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、
資源の節約を極める

印刷機の稼働率を
大幅アップ

インキカラーコントロールシステム

KBD マイクロカラーマーキュリー

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で
使いやすくなって、
新機能も追加!

インキカラーコントロールが
グッと身近に。



メロベル製 (フランス) テンションコントロールシステム

パウダブレーキ・クラッチ・デジタルコントローラー

MEROBEL



パウダブレーキ・クラッチ

- 2ローター+1層エアギャップのシンプルな構造による優れたパウダー安定性
- 優れたパウダー安定性により、スムーズでリニアな初期動作が可能
- 垂直方向軸に適用可能(シャフトなしタイプ)
- 0.2Nm~1000Nm トルクまで、そして5段階の放熱レベルを提供出来る幅広いラインアップ
- 高いコストパフォーマンス

大阪本社 TEL 072-433-7100 / 東京オフィス TEL 03-5798-7805
e-mail: inquiry@bstjapan.com URL: <http://bstjapan.com>

BST
ビーエスティ日本株式会社